

100時間ワークショップ開催報告

東京大学情報理工学系研究科21世紀COE 融合プロジェクト担当
大武美保子(総括プロジェクト機構)

100時間ワークショップとは、プロジェクトベースラーニング(PBL:Project Based Learning)の一種です。100時間という制約の中で異なるバックグラウンドのヒトがチームを組み、新技術のプロトタイプを開発するものです。

2005年7月から9月にかけて、東京大学大学院情報理工学系研究科 21世紀COEプログラム「情報科学技術戦略コア」において、「100時間ワークショップ@情報理工COE」を実施しました。参加者は、自分で問題を発見し、これをチームで解決するスキルを身につけることができます。採択チームは、近未来の情報システム環境を想定し、これを実現するために必要な要素技術を組み合わせたデモンストレーションを開発します。

電子情報学専攻・近山田浦研究室(大域ディペンダブル情報基盤)、コンピュータ科学専攻・米澤研究室(大域ディペンダブル情報基盤)、知能機械情報学専攻・大津國吉研究室(実世界情報システム) 学生有志により、認識技術と並列計算技術が融合した新技術の開発に成功しました。

[目的] 1)情報科学技術の融合、2)若手の育成、3)融合が自律的に進むプラットフォーム開発

[方法] 説明会(7月22日)、マッチング説明会(7月28日)、キックオフ説明会(8月9日)、
成果発表会(9月30日)、成果報告会(11月4日)を開催



説明会



ミーティング



成果発表会



WS100H.NET

[結果] 1)「CHLAC特徴とGridコンピューティングを併用したリアルタイム動作認識」人間の格闘動作に対して認識プログラムを並列に実行し、全身を用いるダイナミックな動作を、カメラ一台で実時間認識できるシステムを構築することができました。

2)「特徴野郎Aチーム:大規模クラスタを用いた高精度なGait Recognition」階段を昇り降りする動作に対して認識プログラムを並列に実行し、人物のスケールが変化する点で困難な課題であるにも拘わらず、Gait認識を従来手法と比較してより高精度に達成できました。

3)「WS100H.NET」PBL(Project Based Learning)のための協調学習支援システム(CSCL: Computer Supported Collaborative Learning)として、自律的なコラボレーションの過程を支援するプラットフォームを開発し、実施過程をコンテンツ化することができました。

[展望] 融合研究の成果を、学会及び論文発表の形で発信し、WS100H.NET上で随時公開します。

[詳細] WS100H.NET: <http://www.ws100h.net/uticoe/>

<参加者>

白井達也、斎藤秀雄、鴨志田良和、吉本晴洋、堀田勇樹、高橋慧(近山田浦研究室); 白木孝義、石黒勝彦、深野亮、伊藤聡、南里卓也、下島康幸(大津國吉研究室); 金田憲二(米澤研究室); 田浦健次朗、大津展之(研究顧問)

<運営委員>

大武美保子、深野亮、酒向慎二、杉正夫、小谷潔、米田隆一、林淳哉、野口博史、大津展之、佐藤知正